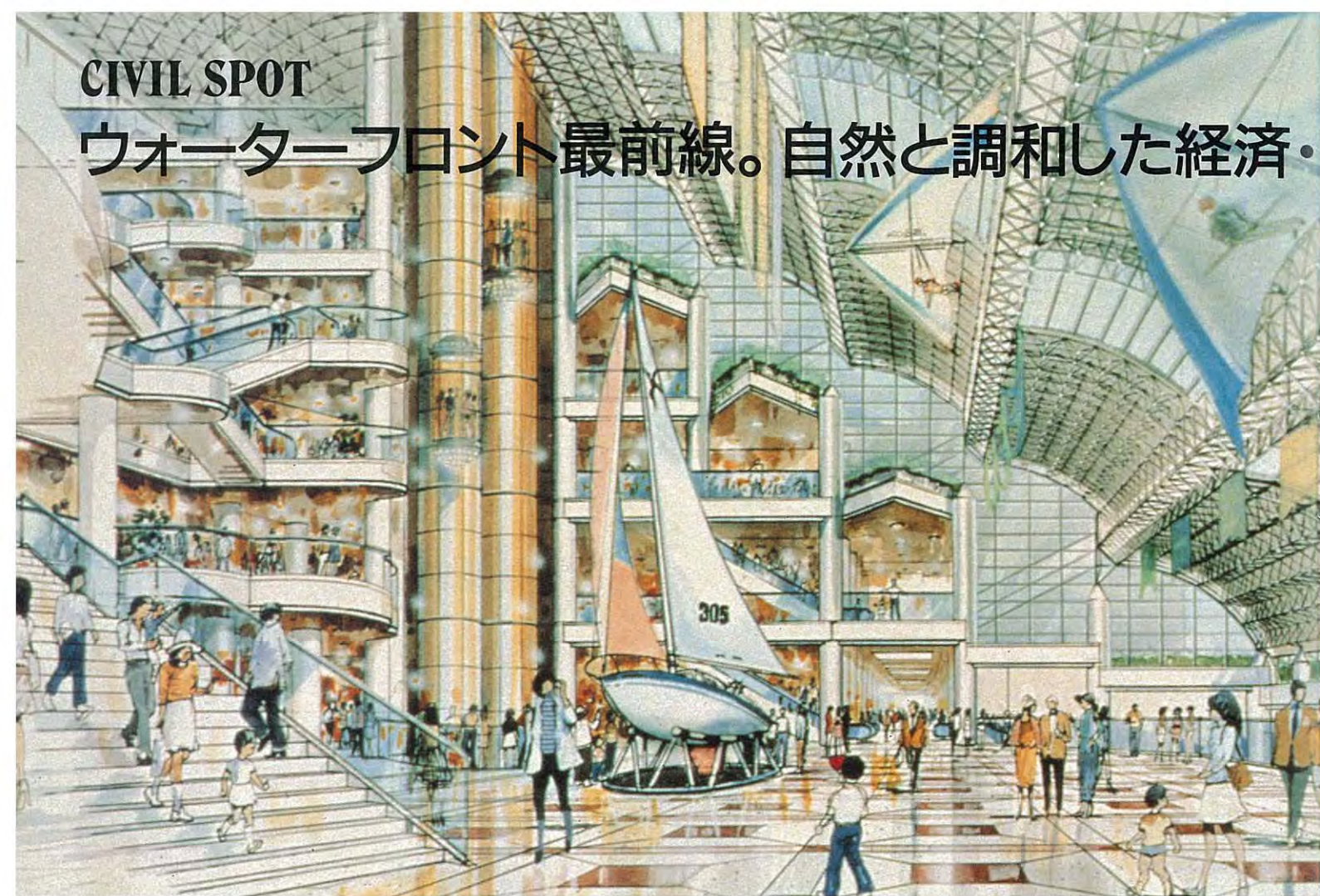


CIVIL SPOT

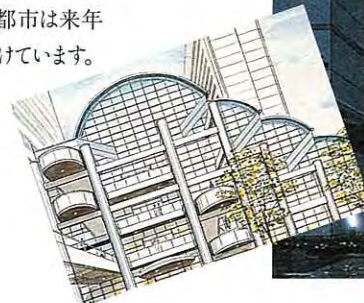
ウォーターフロント最前線。自然と調和した経済・文化の創造空間が水辺に息づき始めた。



港町 KOBEに未来型都市空間、出現 海につながる文化都市「神戸ハーバーランド」

平成4年秋の「街びらき」が神戸っ子の関心を集めている「神戸ハーバーランド」。そこは、JR神戸駅から海に向かって開ける未来型ウォーターフロントの美しい街。東の三宮に対する西の核として、21世紀の顔をもつ複合多機能都市に生まれ変わる街です。

ハーバーランド計画の基本テーマは「海につながる文化都市の創造」。街の最南端に位置するハーバーランド広場は「出会いのウォーターフロント」の中心として、この街に住む人も訪れる人も集う広場です。周辺には海沿いに続くハーバーウォーク（遊歩道）や児童公園、そして商業・文化・教育施設が広がり、イベントのにぎわいや文化の香りがイキイキと漂う魅力的な水際空間を生み出しています。また、21世紀の高度情報化社会に対応し、「遊報都市」としての機能を持つのがハーバーランドセンターのある一画。このセンター内に設立された高度情報センターが、神戸市の情報発信の拠点として24時間都市の機能を支えます。ハーバーランドへの玄関口・JR神戸駅の地下街も今年オープンし、未来形ウォーターフロント都市は来年の完成に向かって、今、急ピッチで前進を続けています。



臨海都市、OSAKAに誕生 21世紀の「住」「職」「遊」が集まる「テクノポート大阪」

咲き洲（南港）、舞洲（北港北）、夢洲（北港南）に誕生する「テクノポート大阪」は新世紀型「住」「職」「遊」のドッキングゾーン。さて、どんな顔の街が誕生するのでしょうか。まず第一は「ボーダレス時代の国際交易・交流の舞台」としての顔。世界有数の見本市会場インテックス大阪を中心に、交易情報を提供する「ワールドトレードセンター」そして世界最大の輸入卸売施設「アジア・太平洋トレードセンター」など新施設が加わり、その舞台が広がります。第二は「ビジネス・文化情報の受信基地」としての顔です。すでに高度情報通信の中枢となる「大阪テレポート」が完成し、国内外の24時間通信が可能になり、企業はもとより一般居住者まで幅広く利用しています。第三は「先端技術開発研究の理想的な街」の顔。先端技術分野のトップ企業が集合し、各種サポート施設が整う街は研究開発のための理想的環境になるでしょう。そして、これらすべてを含めた「生活者にやさしい暮らしの場」としての顔です。マリナー付きの住宅や広大なスポーツアイランドなど、住・職・遊・自然がわりなく融合し合うなかで常に成長を続けるこの街は、21世紀、「世界の大坂を先導する新しい都心」として誇らかな表情に輝くことでしょう。



大阪ベイエリアの未来形、「オーバル ビジョン2025」水の中

5つのプロジェクトを中心に描かれる大阪ベイエリア湾の21世紀の風景。
『自然と調和』をメインテーマに奏でられる、近畿のグランドビジョンをご紹介します。



再開発による回廊状の高アメニティゾーン形成 ルネッサンス・コリドール構想

～再開発による回廊状の高アメニティゾーン～
現在の臨海部の低未利用地や、埋立地、その周辺部を含めた再開発を推進します。ここでは既存産業の高度化や先端技術産業、研究開発産業、臨空型産業の活性化をはかるとともに職、住、遊、学が調和した“臨海都市”形成をめざします。



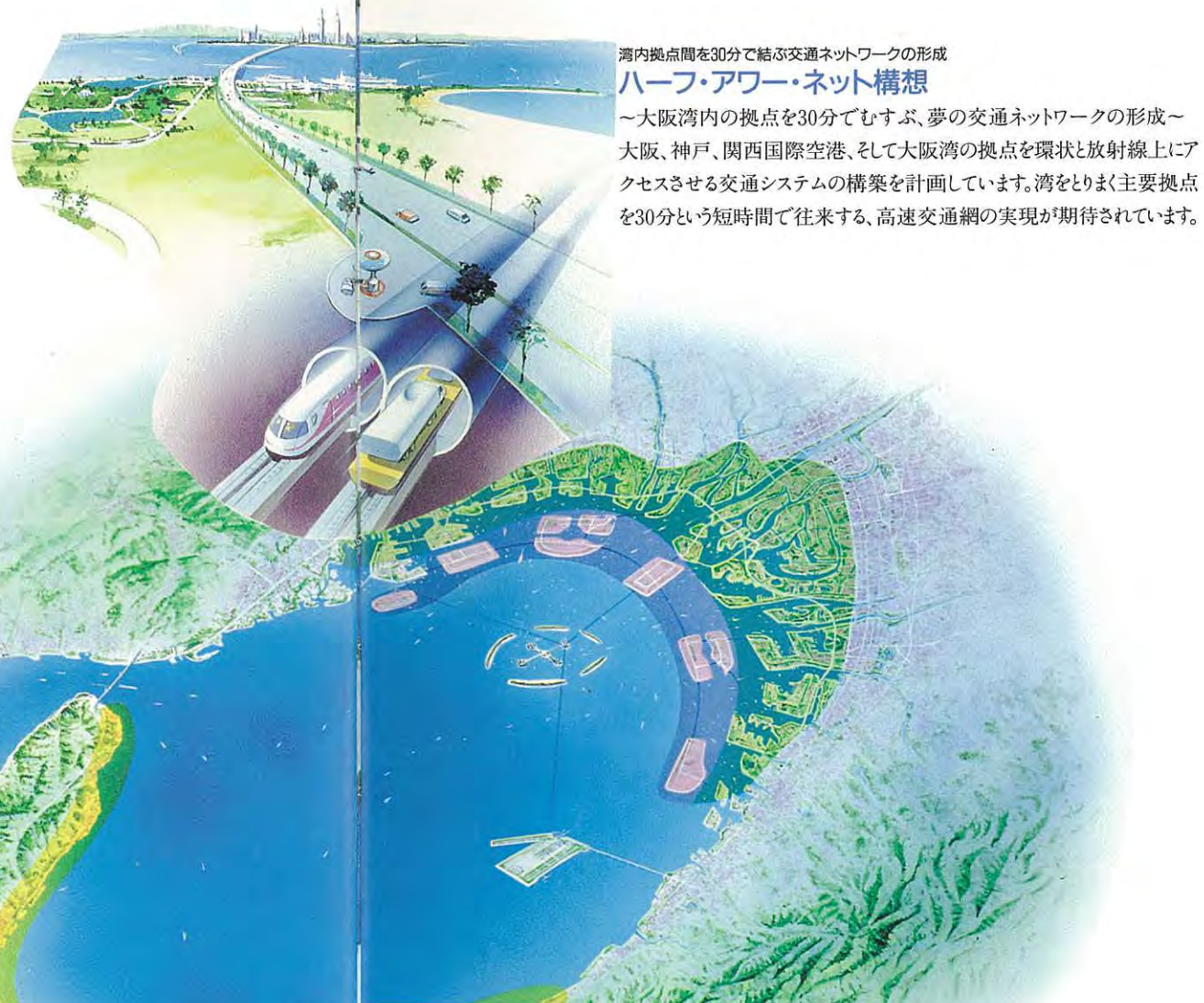
地域の活性化を目指したマリリゾート空間の形成 クロワッサン・リゾート・シティ構想

～地域の活性化をめざしたマリリゾート空間の形成～
関西国際空港の利用者や沿岸に住む人々が日常的に訪れることのできる、都市近郊型リゾート地整備の計画を推進します。マリンスポーツをはじめ、ショッピング、カルチャー、アートなど現代都市型生活者のレジャー志向を満足させる複合施設とともに、地域活性化のためのオフィス、リサーチパークなどの新たな都市空間も計画されています。



多彩な機能を持つ先進的な新人工島群の形成 ニュー・ネックレス・アイランズ構想

～多彩な機能を持つ先進的な新人工島の形成～
廃棄物の処理を中心とし、湾内の環境改善に役立つ人工島の構築を計画しています。また、豊かな自然環境を活かした中に、商業、生産、業務、研究などの機能導入も検討されています。とくに、神戸沖、阪神沖、大阪沖、堺泉北沖の人工島ではその一部に総合的な物流ターミナルが構想されています。



湾内拠点間を30分で結ぶ交通ネットワークの形成 ハーフ・アワー・ネット構想

～大阪湾内の拠点を30分でむすぶ、夢の交通ネットワークの形成～
大阪、神戸、関西国際空港、そして大阪湾の拠点を環状と放射線にアクセスさせる交通システムの構築を計画しています。湾をとりまく主要拠点を30分という短時間で往来する、高速交通網の実現が期待されています。



水域環境を改善するとともに沿岸域共通のシンボルとなる湾央拠点の形成

ベイ・キャピタル構想

～沿岸域共通のシンボル。大阪湾の海・陸のネットワーク拠点～
自然の潮流を利用して湾奥部の海水交換を促進し、湾内の水質改善を実現するために構想されているゾーン。それとともに世界に開かれた大阪湾の“核”をめざし、沿岸域共通のシンボルとして多彩なネットワークシステム機能を果たし、かつ湾内の交通網の中央拠点の実現もめざします。

大阪ベイエリアの未来に向けて

運輸省第三港湾建設局は、より美しく使いやすい港づくりを通して、快適で潤いのあるウォーターフロント空間を創り出しております。

また、空の港の整備も時代のニーズに合わせて取り組んでおります。

さて、大阪湾ベイエリアが、関西を挙げてこれほどまで注目されているのは、有史以来はじめてではないでしょうか。しかも今回は個別のプロジェクトの林立にとどまらず、大阪湾を一体のものとしてとらえた長期ビジョンがいくつか発表されています。

当局としても、ベイエリアの活気を海側で受けとめるための基盤整備のあり方について検討を重ね、先般7月には「オーバル ビジョン 2025」の理念に沿って、大阪湾一帯においても、自然と調和した経済・文化の交流・創造空間の形成をめざしたインフラ整備を行っていきます。



運輸省第三港湾建設局長 堀井修身氏

昭和14年大阪府生まれ。昭和38年京都大学工学部土木工学科卒業。同年運輸省入省、港湾局計画課港湾計画審査官、大阪湾広域臨海環境整備センター参事、港湾局計画課長を経て、平成3年第三港湾建設局長に就任。現在に至る。